

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 12月成魚調査速報

●実施状況

令和5年12月6日に成魚調査を実施した(例年11月中に実施しているが、天候不順等による延期により12月実施となった)。調査当日は小潮で、干潮が4時52分、満潮が11時48分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は4.2~7.7mであった。また、いずれの地点において赤潮は発生していなかった。

	St.10		St.22		St.25		St.35	
作業時刻	9:07-10:00		10:02-10:44		11:08-12:03		12:08-13:25	
水深(m)	9.1		15.4		13.2		25.8	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温(℃)	12.0		12.3		12.4		16.0	
風向/ 風速(m/sec)	N/2.0		N/6.2		N/1.8		N/1.2	
波浪(m)	0.2		0.3		0.2		0.3	
透明度(m)	5.1		6.2		4.2		7.7	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	14.8	15.9	14.6	16.6	14.3	16.8	15.1	16.5
塩分(ー)	30.8	32.2	30.5	33.1	29.1	33.3	31.9	33.8
DO(mg/L)	7.5	6.8	7.8	5.8	7.6	5.5	7.7	5.9
DO飽和度(%)	89.5	83.6	92.8	72.4	88.6	69.1	92.8	74.7
pH(ー)	7.9	7.9	7.9	8.0	7.8	7.9	8.0	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

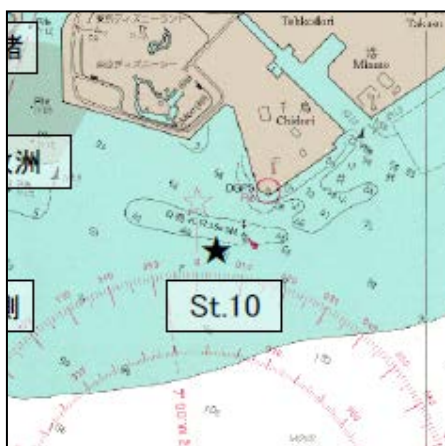
主な出現種等	St.10	St.22	St.25	St.35
魚類	ハタテヌメリ(+) アカエイ(r) クロダイ(r)	マハゼ(r)	アカエイ(r) マハゼ(r) テンジクダイ(r)	コモチジャコ(+) ハタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) シロギス(r) ゲンコ(r)
魚類以外 (目立った種)	ホンビノスガイ(m) サルボウガイ(+) トリガイ(+)	ゴカイの仲間(m) スナヒトデ(+) エビジャコ属(r)	シャコ(+) スナヒトデ(+) ホンビノスガイ(r)	シャコ(m) スナヒトデ(c) テッポウエビ科(+)
備考	上記の他、シャコ、ヒメガザミ、サルエビ等が確認された。揚網中にミズクラゲが多数入網した。	上記の他、シャコ、イッカクモガニ、クモヒトデの仲間が確認された。	上記の他、ゴカイの仲間、エビジャコ属、ダンゴイカ科等が確認された。揚網中にカタクチイワシが入網した。	上記の他、ケブカエンコウガニ、フタホシイシガニ、マルバガニ等が確認された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

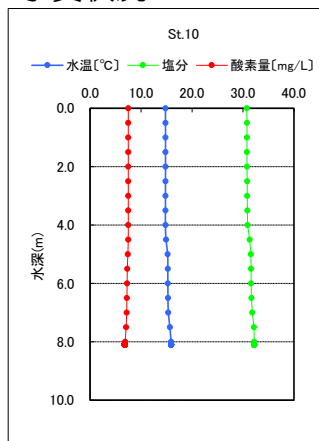
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St. 10

調査地点位置



水質状況

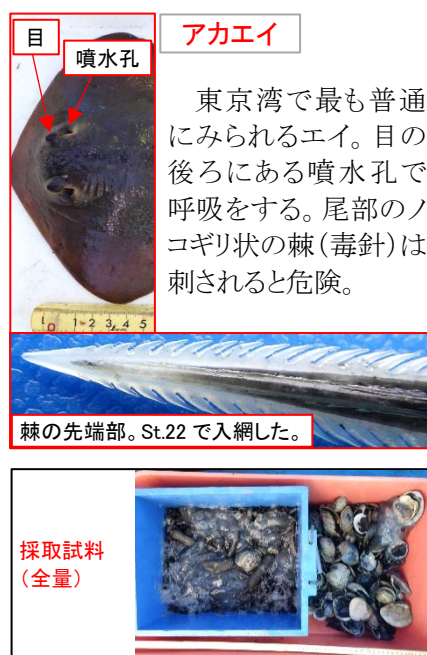
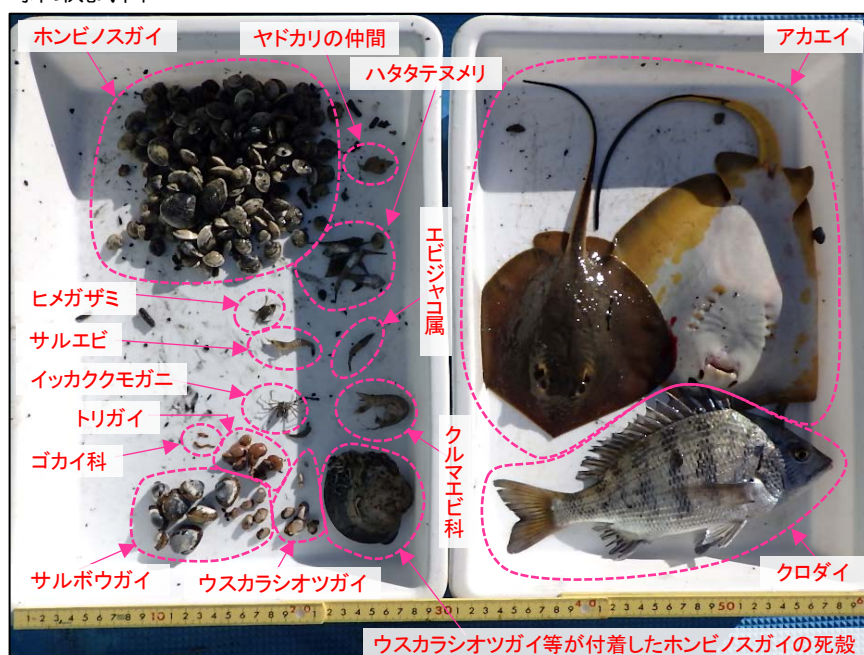


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域に出現し、河川の下流域や運河等の汽水域でも普通にみられる。体色は銀白色であるが、タイ科の中では黒っぽい。雑食性で小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類などを食べる。雄性先熟(ゆうせいせんじゅく:オスとして性成熟した後メスに性転換する)である。



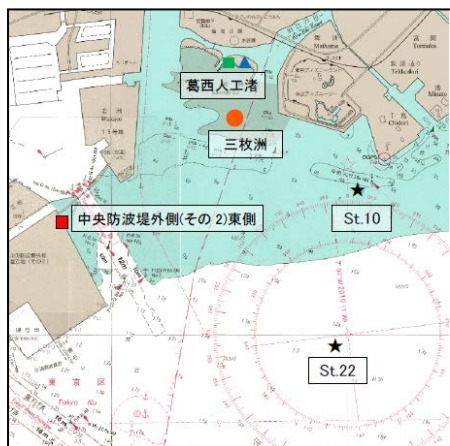
北米原産の外来種で殻長 10 cm を超える大型種。貧酸素状態への耐性が高く、東京湾を代表する二枚貝となるほど繁殖している。本来殻は白色だが、貧酸素化した海底に生息するものは硫化物の影響で黒っぽくなる。



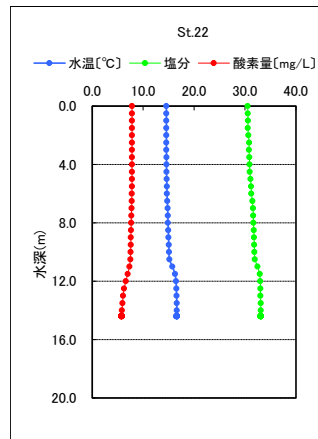
東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間。体表は細かい毛に覆われており、体長 10cm 前後になるがオスの方がやや小さい。内湾の砂底～砂泥底に生息する。日中は砂に潜っており、夜間に活動する。7～8 月が産卵盛期。

調査地点：St. 22

調査地点位置



水質状況

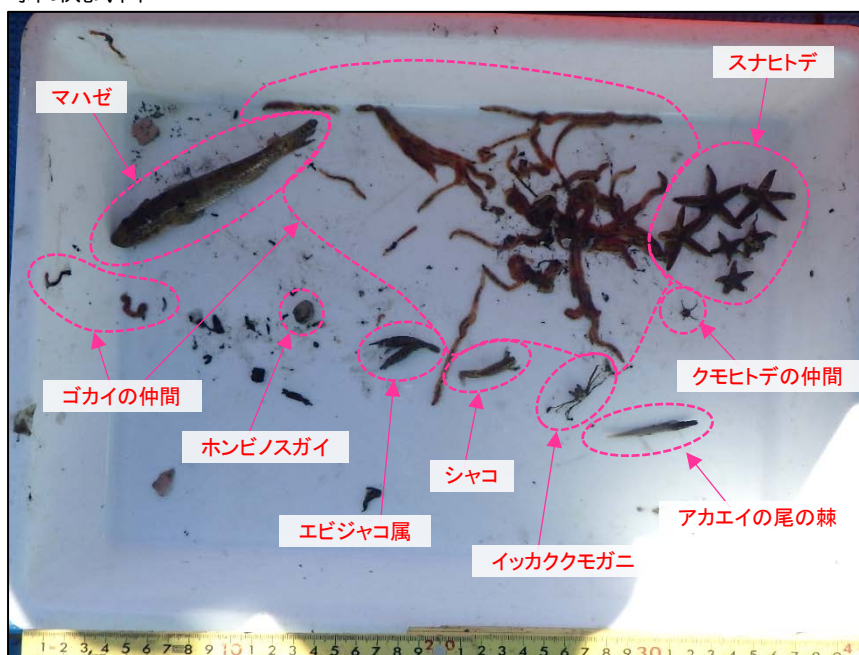


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



体長 20cm 以上になる大型のゴカイの仲間。東京湾の泥底～砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通にみられる。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾を代表する魚のひとつ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。



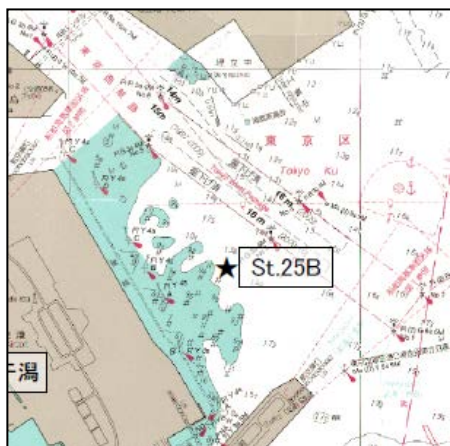
内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデの仲間。砂中の貝類等を捕食する。ヒトデの多くは先端が吸盤になっている管足を用いて移動するが、本種にはその吸盤が無く、砂泥上をすべるように移動する。通常は 5 本腕であるが、まれに腕の数が多い個体が出現することがある。



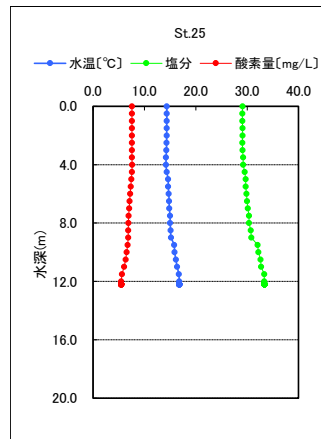
甲幅 2cm 程になる。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。貧酸素に比較的強く通年で繁殖する。

調査地点：St. 25

調査地点位置



水質状況

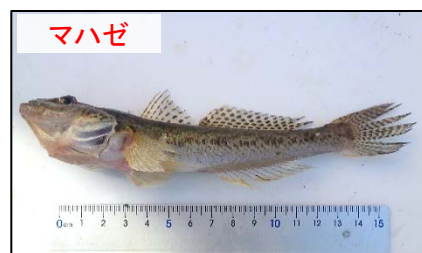
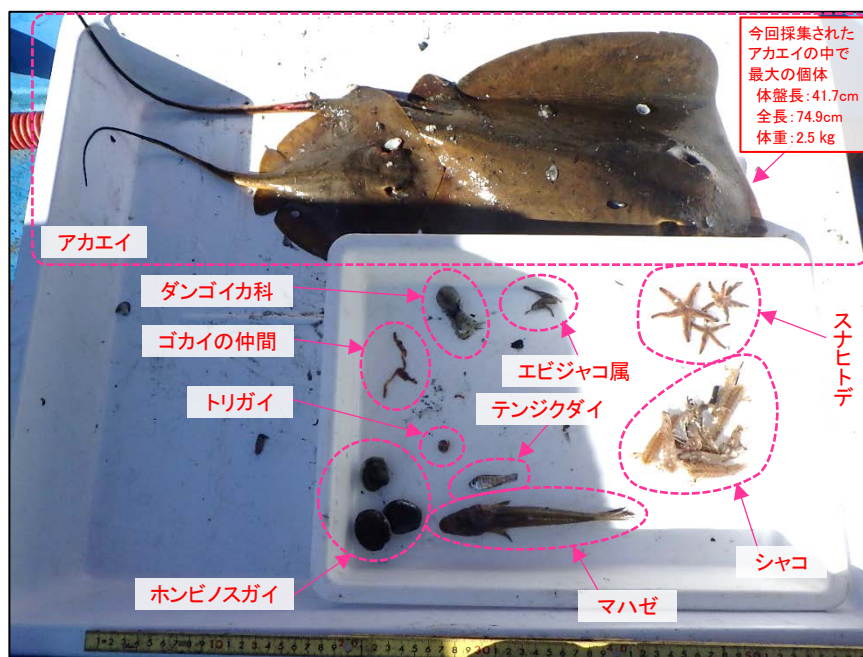


地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



※解説は St.22 を参照。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7～10月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。

河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小1対の口を持つU字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深15～30mに生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。

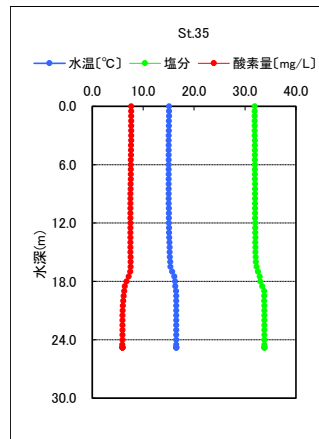
丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



水深 50～150mの砂泥底に生息する。湾奥ではあまりみられなかったが、本調査において令和 2 年度に初出現の後、3 回採集された。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



アカハゼによく似るハゼの仲間。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾中央に分布する。産卵期は春。



全長 14 cm 程になる。夏は湾中央部のやや深い場所に生息し、秋から春にかけて湾奥部にも分布する。この回遊は夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。産卵期は 2～11 月。



東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。水温が高い時期は浅場で過ごす、低くなってくると深所へと移動する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は 5～10 月。